

バーバがどのように私の質問に答えてくださったか

アハリヤー・ノリス

1979年の秋、バーバ・ムクターナンダの自伝、『プレイ・オブ・コンシャスネス』を読んで間もなく、私は彼に直接会うために旅に出ました。バーバは3回目の世界ツアーの最中で、つい先日シュリー・ニッティヤーナンダ・アーシュラム(現在のシュリー・ムクターナンダ・アーシュラム)に到着したばかりでした。夕方のサツァングの後、ダルシャンの列で、はやる思いで少しずつ前に進んでいた時、これまでに一度も熟考したことのない質問が頭に浮かびました。私が彼の前にひざまずいた時、その言葉は無意識に表に出てきたようでした。私は尋ねました。「バーバ、これは私の顔だ、これは私の手だ、これは私の身体だ、と言っているのは誰ですか？」

バーバは答えました。「次のインテンシヴであなたの質問に答えよう」

バーバが数日後に行く、私にとって初めてのシャクティパート・インテンシヴに、私がどれほどワクワクして申し込んだか、あなたにも想像できるでしょう！

インテンシヴの間、私はバーバからの答えを受け取るのを待ちながら、すべてに心を込めて取り組みました。彼の講話をよく注意して聴き、チャンティングし、瞑想し、そして、私が体験していることすべてについて熟考しました。

すると、最後の瞑想セッションで座っている時、私の胴体が、底部を中心にして、こまのように回転し始めました。後になって知ったのですが、私は目覚めたクンダリーニーが身体的に現れる典型的な例を体験していたのです。それは、この上ない幸福感でした。このような身体の動きが起きているのと同時に、これらの動きを見ている存在に気づきました。私の目は瞑想中で閉

じているにもかかわらず、私は、私の身体の上方にあって身体から離れている、形のない意識の状態から、起こっていたすべてを目撃していました。私はすべてに完全に気づいていましたが、同時に何もしていませんでした。

インテンシヴの後、スーツケースに荷物を入れ、家に帰る準備をしていた時、私はまだ、見ていて、そして分かっているという、その境地の中にいました。私の両手は楽に荷造りの動作をし、私の両足は建物を出るために階段を下りて行き、この間ずっと私は、この存在、この気づき、この静止した静けさの境地からすべての動きを目撃していました。

言葉通りに、バーバは私の質問に答えてくれました。インテンシヴの中で、バーバは私の質問に対し、知的な、言葉による答えをはるかに超えた答えをくれました。バーバは私に大いなる自己の体験を直接与えてくれたのです。

